

「JENESYS2.0」

2016年度中国高校生訪日団第4陣Aコース

訪問日程 平成28年12月6日(火)～12月14日(水)

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した2016年度中国高校生訪日団第4陣Aコース(団長:劉江義(リュウ・コウギ)河北省教育庁 国際合作・交流処 副処長)計123名が、12月6日から12月14日までの8泊9日の日程で来日しました。本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、東京都を始め、茨城県、福岡県、島根県、神奈川県、京都府を訪問し、「クールジャパン」を含め、様々な分野における日本の魅力、強みを体感したほか、高校や大学の訪問・交流を通じて、同世代の青少年同士の友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

12月6日(火)

第1・2・3分団:羽田空港より入国、江戸東京博物館見学
第4分団:成田空港より入国
オリエンテーション

12月7日(水)

社会貢献・ボランティアに関する講義、日本大学訪問、歓迎会

12月8日(木)

杉並区立児童青少年センター(ゆう杉並)視察
第1・2分団:茨城県へ移動、JAXA 筑波宇宙センター見学、サイバーダイナスタジオ見学
第3・4分団:福岡県へ移動

12月9日(金)

第1・2分団:学校交流(東洋大学附属牛久高等学校、サッカー交流)
第3分団:トヨタ自動車九州宮田工場見学、宗像大社見学、学校交流(福岡県立光陵高等学校)
第4分団:学校交流(福岡県立香椎高等学校)

12月10日(土)

第1・2分団:浜離宮恩賜庭園見学
第1分団:福岡県へ移動、和風温泉旅館での日本文化体験
第2分団:島根県へ移動
第3・4分団:体験プログラム(狂言)、福岡タワー見学、太宰府天満宮見学、九州国立博物館見学、和風温泉旅館での日本文化体験

12月11日(日)

第1分団:体験プログラム(狂言)、太宰府天満宮見学、九州国立博物館見学、福岡タワー見学
第2分団:松江城見学、出雲大社見学、体験プログラム(紙漉き)、宍道湖クルーズ体験
第3分団:東京都へ移動、日本科学未来館見学、パナソニックセンター見学
第4分団:京都府へ移動、金閣寺見学、高台寺見学

12月12日(月)

第1分団:学校交流(福岡市立福岡西陵高等学校)
第2分団:学校交流(島根県立大東高等学校)、和風温泉旅館での日本文化体験
第3分団:学校交流(横浜市立みなと総合高等学校)
第4分団:学校交流(京都府立山城高等学校)

12月13日(火)

第1・2・4分団：東京都へ移動

第3分団：国会議事堂視察

第3・4分団：皇居二重橋見学

歓送報告会

12月14日(水)

第1・2・3分団：羽田空港より帰国

第4分団：日本科学未来館見学、パナソニックセンター見学、羽田空港より帰国

3 写真

<共通>



12月7日 社会貢献、ボランティアに関する講義
(東京都)



12月7日 社会貢献、ボランティアに関する講義
(東京都)



12月7日 日本大学訪問(東京都)



12月7日 日本大学訪問(東京都)



12月7日 歓迎会 石井健外務省アジア大洋州局
アジア青少年交流室長挨拶（東京都）



12月7日 歓迎会 東洋大学附属牛久高校ダンス部
生徒と交流（東京都）



12月8日 杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）
視察（東京都）



12月13日 歓送報告会 訪日成果報告（東京都）

<第1・2分団>



12月9日 東洋大学附属牛久高校訪問・交流
（茨城県）



12月9日 東洋大学附属牛久高校訪問・
サッカー交流（茨城県）



12月8日 サイバーダイnstudio見学（茨城県）

<第1分団>



12月12日 福岡市立福岡西陵高校訪問・交流
（福岡県）

<第2分団>



12月12日 島根県立大東高校訪問・交流
（島根県）



12月11日 体験プログラム（紙漉き）
（島根県）

<第3分団>



12月9日 福岡県立福岡光陵高校訪問・交流
(福岡県)



12月12日 横浜市立みなと総合高校訪問・交流
(神奈川県)

<第4分団>



12月9日 福岡県立香椎高校訪問・交流 (福岡県)



12月12日 京都府立山城高校訪問・交流 (京都府)

<第3・4分団>



12月10日 体験プログラム(狂言体験) (福岡県)



12月10日 太宰府天満宮見学 (福岡県)

4 参加者の感想（抜粋）

○ 今回の訪問を通じて多くの事を学んだ。それは我が国の人達が改善しなければならない事ばかりだ。例えば社会の水準、個人の一般的教養、それから思想のレベルなど、皆高めなければならない、日本に学ぶ必要があるものだ。日本人はそういう面では確かに私達より優れている。謙虚に見習いたい。それから教育理念。ただひたすら勉強を強要するのではなく、学生が自分だけの小さな世界を持てる様にして欲しい。そして他の事にも目を向けさせて、保守的になりすぎず、ゆったりと大らかに構えたらいいと思う。また環境問題については、国民一人一人が素養を高め、思考レベルから自分達の態度を正して初めて解決できると思う。

このような訪問活動の機会が少しでも多ければ、私達学生の今後の人生に大いに役立つ。

○ 訪日の期間中、私達は東洋大学附属牛久高校を訪れ交流したが、皆とても親切だった。何と別れの時には泣いている学生もいた。

牛久高校はサッカーのレベルが素晴らしく、午後の合同練習で私達は多くの事を学び、仲良くなって連絡先を交換した。

日本の教育体制や社会のサービスはとても優れていて、見習う価値がある。日本で見て感じた事を友達に教えようと思う。

○ 今回の友好交流で一番心に残ったのは紛れもなく学校交流だ。私達第1分団は東洋大学附属牛久高校と福岡市立福岡西陵高校を訪れた。この2校には違いがある。牛久高校は国際的で学校も大きく、学生も多い。校内行事も多く、学校は町の中にある。西陵高校は喧騒を離れた山の上にあり、学業と実践能力の養成を重んじる比較的小さな学校だ。しかし2校には共通点が1つある。それは学生達が心を込めて私達を迎え、入念にもてなしてくれた事だ。それが強く印象に残った。機会があれば必ずまた日本に来たい。

○ 日本の環境衛生対策は万全だ。清掃面では例えばグリーンバードの様なボランティア活動があり、一人一人がしっかり環境保護意識を持っており、道路はきれいで清潔だ。そしてゴミは科学的に細かく分類し、資源の再利用を充実させて無駄遣いを防いでいる。学校交流の教室掃除で私はゴミ捨て係になった。ゴミを捨てる際、見るとそのゴミはきれいに分別された燃えるゴミだった。この時の記憶は今も鮮明だ。もし中国のゴミもこんな風にできれば沢山資源の無駄遣いを防げると思ったからだ。

帰国したら家族や友達に環境保護の事を話したい。

○ サッカー交流で多くの事を学んだ。牛久高校では彼らが技術的に上だとわかった。身長は低目だが動きが素早く、チームワークを大切にしている。この点は見習わなければならないと思う。やはりサッカーは個人競技ではないので、チームの団結は大事だ。また、彼らは謙虚で馴染みやすく、文句も言わず、勝負を達観している。こういう優れたところは見習うべきだ。

○ この訪問で日本はとても礼儀正しい国だと身をもって強く感じた。どこへ行っても、知り合いでもそうでなくても皆挨拶してくれる。私はそこから礼儀正しく人に接する事を学んだ。

また日本の友達がとても愛想良く私達に挨拶してくれるお陰で、私達は数日間にわたり「スター

の生活」を味わった。

私は日本に来る前から日本に関する物が大好きだった。来てみると、パソコンや携帯で見ていた画面が目の前に現れ、まるで夢みたい！と感じた。

帰ったら友達に日本の生活のささやかな出来事を伝えたい。その方が日本の本当の美しさが伝わると思うから。

中国と日本は数千年の付き合いで文化も似ている。だから両国民はもっと仲良くすべきだ。私達新しい世代から始めなくては。

日本の友情を伝え、中国の文化を日本に伝えたいと思う！

○ この訪問で一番印象的だったのは、完璧なインフラと学生の生活だ。この僅か数日間で、きれいで清潔な道路を見、地元のグルメを味わい、人々の温かさを感じた。そして日本の学生生活も気に入った。自分の考えで物事を決める事が出来るからだ。中国では、午前は授業で、午後は部活といったやり方や考え方はほとんどない。しかしこれなら学生の自主能力を培う事ができ、自立が当たり前になる。日本で聞いた事、見た事、感じた事をありのまま周囲の人に伝え、日本への旅行や留学、色んなイベントに参加するよう勧めたい。内蒙古にもグリーンバードのような団体ができたらいい。そうすればきっと私はメンバーの一員になるだろう。

○ 国民の一般的教養が高く、相手に対していつも笑顔で接し、親切で礼儀正しい。サービス業も客目線の考え方が行き届いており、道を聞けば曲がり角まで連れて行ってくれる。バスの運転手は目的地に着くと、バスを降りてトランクから客のスーツケースを一つ一つ取り出してきちんと並べるが、客には手伝わせない。

日本の都市と農村は私が想像する以上に清潔だった。大都市も小さな町も、賑やかな都会も辺鄙な田舎も、行く所々清潔で整然としていた。この9日間、私の皮靴は最初の日にクリームを塗っただけで、今も新品の様にピカピカだ。路上を行き交う車もきれいで、タイヤの刻印もそのままに本来の黒色を保っている。

生活環境が美しい。街はゴミゴミしているが、然るべき所には必ず木陰がある。そして広い林や芝生の公園もある。農家の周囲に植えられた松の木はせん定して整えられ、芝生の上には余計な物が何もない。

食事の面では、油控えめのあっさり味で生野菜が多い。バイキングも定食もある。定食は大体腹七、八分目位の量だ。日本人が長生きなのは食事を控えめにする事と直接関係がある。これは中国人の食習慣と全く違う。私は中国人も毎食決まった量の定食を食べる習慣にすれば、派手に飲み食いする社会の風潮の歯止めになると思う。

○ 帰国したら日本に行き渡っているプラスエネルギーを周囲に伝えるつもりだ。

プラスエネルギー1:勤勉の精神

マーケット、博物館、レストラン等にはガードマンの姿がある。きちんとした身なりで、道を聞くと指差して教えてくれるだけでなく、時には目的地まで連れて行ってくれる。揺るぎなく力強い足取りで、仕事に使命感を持ち尚且楽しんでる。

プラスエネルギー2:自由と自律

日本の学生は自由な中にあっても皆、自分を律している。彼らは髪型、服装、授業さえ自分の好

きなものを選べるが、その教室にはちり一つ無く、互いに相手を尊重し、忙しい中にも秩序がある。それはゴミ一つない道路、私達は何日も履いている靴の裏からも見て取れる。

プラスエネルギー 3: 謙虚に学ぶ

日本は常に失敗から多くを学んできた。異文化のエキスを取り入れ、残りカスを捨てることで絶えず成長してきた。例えば国会議事堂の壁に施された精巧で美しい彫刻は中国風で、輸送兼投函用ポストはアメリカからの輸入だ。

プラスエネルギー 4: 人の事を考え、迷惑をかけない

だから日本人は本気で学び、心から楽しみ、丁寧に暮らす事ができる。

○ 一番印象深いのは伝統文化“狂言”だ。体験する前は“狂言”を知らなかったが、今回、私は見るだけでなく舞台上で鳶の鳴き声や雷の音などを教えて貰い、やってみた。そして日本の伝統文化は非常にしっかり受け継がれていると感じた。経済発展目覚ましい今日、建設重視に加え文化の保存も重視しなければならない。文化は国や民族の基礎だ。もし民族の文化がなくなれば、その国もなくなるだろう。だから何とかして中国の伝統文化を盛り上げなくてはいけないのだ！

○ 学校で先生や学生と交流した事がとても印象深い。私達は2つの高校を訪れた。初めは福岡県立光陵高校だった。靴を脱いで学校に入った。担当の先生が私達を親切に案内してくださり、先ず学校の説明を聞いた。その後体育館に行くと、沢山の学生がいた。前の方には楽器を手にした十数人の学生がいて、私達が横の方に着席するのを待って演奏が始まった。とても心地よい音楽だった。それから茶道の所に行き、靴を脱いで部屋に入った。先生が正座して居られ、女の子が私達を通してくれた。そして私達も正座し、学生達が作った桜の形の可愛いお菓子を頂いた。甘くて美味しかった。その後お茶が運ばれてきた。緑色で味はまあまあだ。飲み終わるともう足が痺れていたが、先生を見るとまだずっと正座していらっしゃる。学生達も毎日長時間、正座していると思うと大変だなあ！と感じた。私達は華道もやった。先生が一所懸命に教えてくれるので、私達も真剣にやっていたが、花を中国に持ち帰れないのが残念だった。先生にお土産を渡すととても喜んでくれた。二回目は横浜の学校で、一对一の交流をした。言葉は通じなくても英語や手振りで言いたい事がすぐ分かった。それから先生の授業も良かった。私が一番良かったのは国語の授業で、詳細は分からないが何の話をしているかは分かった。漢詩『絶句』だ。中国ではずっと前に習った。先生が中国語を幾つか教えて欲しいと言ったので、喜んで教えてあげると、ぎこちない発音ではあったが、なかなか上手だった。お土産を渡すととても喜んでくれた。

私は環境面は日本に見習わなければならないと思う。日本に来たとたん何てきれいなんだと思った。それから交通面も、車が多くて渋滞もあるが、クラクションを鳴らす車は無い。私達の国はこの二点を改善する必要がある。

○ 今回一番印象深かったのは杉並区立児童青少年センターで見た返信ボードだ。意見箱に入れられたどんな質問に対しても一つ一つ答え、それを貼り出してある。こうした様子から今までに感じたことのない敬意を感じ、心地よさを覚えた。次は日本人が親切で礼儀正しい事だ。安定した社会にあってさらに幾分か安心感が増す。また日本の学生達は私達と同年だが、落ち着きがありしっかりしている。これは見習いたいところだ。

帰国したら家族や友達に、友好的な本当の日本を教えたい。日本の高校は比較的自由で、皆が主

人公として社会の公益活動に参加するよう呼びかけられ、努力して自分の価値を見出すよう奨励されている事。また厳肅で堂々たる日本の政治の中心や、今と昔の情景や息づかいが交じり合う建築様式、当然ハイテクは至る所溢れている事も。

とにかく、多くの事を学んで成長できたし見聞も広がった。日本が中日友好を大切に思ってくれる事に感謝したい。私も自分らしく頑張って“平和の使者”になろうと思う。

○ この度の日本訪問で私は多くの事を感じ、学んだ。帰国したら皆に話したい事が沢山ある。日本の文化、風習、風土や人情、社会の秩序などについてだ。

日本は輸入大国で経済レベルは世界上位の先進国だ。中国は工業と金融貿易中心の世界最大発展途上国で、人口も世界一だ。両国は互いに学び合い、交流し、意思を通わせて文化を学び、共に技術を進歩させている。日本に来た最初の印象は、環境がよく管理されていると言う事だ。至る所に公園や学校や居住区の緑があり、街に映えて清々しさを添えている。ゴミ箱はない。随行ガイドがゴミは作らなければ出ないと話していたが、その通りだと思う。国をダメにするのに10年かかるが、取り戻すには30年かかる。生活の質を高め、環境改善に役立つ事は、人々の一般的教養の高さにも大きく影響する。

礼儀や礼節は大事だ。礼儀礼節とは何か。私は内から湧き上がる気品だと思う。人によって感じ方は違おうだろうが、沢山見習えば人に好印象を与える等、日本人に象徴されているように、微笑む顔が至る所で見られるはずだ。

今回来た価値があったかと問われれば、その“価値”とは何か。服を沢山買う事？美味しい物を食べる事？或いは日本の高校生と知り合う事？どれも違う。文化、風習、習慣、これこそが今回訪日の目的ではないか！

○ 日本文化を体験する中で、これまで全く知らなかった事を学んだ。私の専門は美術だが、日本各地を見て回る中で斬新な芸術に触れ、視野が広がり、美的センスが高まった。学校交流は今までにない感覚だった。日本の学生は明るく親切で礼儀正しい。彼らの毅然としたところや純真なところは立派だと思う。私は新しい事を沢山知り、日本の学生の勉強法も分かった。これは自分の将来に役立つと思う。新しい友達も沢山でき、連絡先を交換し、途絶えることのない友情を約束した。いつか日本に留学したい。留学してこの国の文化をもっと知り、自分の夢を追いかけてたい。日本が大好きだ。

○ 一番印象深かった事、一つは横尾俊成先生のグリーンバードのお話だ。グリーンバードの考え方は普通の公益団体と違う。ゴミ拾いしている目の前でポイ捨てる人がいた場合、彼らの解決法は大変ユニークだ。ポイ捨てした人にちょっとしたプレゼントを渡し、みっともない事をしたと気づいてもらうのだ。するとその人は以降、ポイ捨てしなくなる。二つ目は、福岡の学校で日本の学生と一緒に受けた剣道の授業だ。手本を見せてくれた日本の学生達は気迫十分で掛け声にも気合が入り、身震いするほどだった。

帰国後、周囲の人に伝える事。一つは日本の理念だ。例えばグリーンバードやゆう杉並のように、青少年に自主決定権を持たせるという考え方、また弱者保護や“人に迷惑をかけない”などの考え方も。二つ目は学校教育で変われば良いと思う点だ。例えば多種多様な部活動を繰り広げ、活動時間も確保する、伝統文化や民族の特色に関するカリキュラムを設けるといった事だ。あとは人に優

しい日本の先進設備の印象的な例として、日本の自動販売機は人がいない時は明るさを落としているが、硬貨を投入すると明るくなり、買う人が見易くなる事なども。

- 1. 日本大学訪問で、進学就職という決まり事に対する見方が変わった。進学重視でエンジニア不足という国内の現状を変えなくてはと思った。
- 2. 福岡県立香椎高校の交流で、学校が学生の個性を伸ばす事や伝統文化の伝承に重きを置いていると感じた。
- 3. 京都の高校を訪問し、日本の学生の 1 日の生活、日課と部活等について一段と良く分かった。